

令和2年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査について

1. 学力検査結果の概要

本概要は、令和2年3月5日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものであるとともに、問題作成にあたっては、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着している。
- ②文章・図などの内容や何が問われているかを正確に読み取り、複数の知識・技能を結び付けて活用する力や適切に表現する力に課題がある。

【国語】

漢字の読みや敬語、漢文の基礎的な知識や読解力は身につけていたが、漢字の書き取りや文節の理解は不十分だった。文章読解では、選択式の正答率は高かったが、文章全体の流れを捉えないまま部分のみに着目する傾向があり、記述式では文章から答えの要素を探し出せずに減点となった解答が多く、平均点の下降につながった。作文は、書き上げようとする意欲は高かったが、条件に合わせて書くことができずに減点となった解答が目立った。基礎的・基本的な知識の確実な定着と共に、文章全体の流れを捉えた上で部分を正確に読む力、異なる立場をふまえて意見を述べる力の育成が望まれる。

【社会】

昨年までと同じく、複数の資料を読み取り、決められた字数内で表現する問題等を多く出題したが、資料の読み取りや文章で表現することが苦手な受検生にとっては難しさを感じる問題もあったと思われる。基礎的・基本的な問題の正答率は比較的高く、知識はある程度身につけていると思われるが、奈良時代の歴史書を問う問題に「風土記」「万葉集」等の誤答が多く見られることから、あいまいな理解にとどまっている受検生も多いと考えられる。

【数学】

基本的な知識・理解を問う問題に関しては正答率が高く、学習の成果がうかがえる。一方、問題を解く上で読解力を必要とする問題では、問われていることを的確に捉えることができていないと思われる解答が見受けられた。図形に関する問題では他の分野に比べて正答率が低く、身近な事柄について方程式や関数を利用して考察・処理する問題では無答率が高いものがあった。文章や図形，グラフを正確に読み取り，その中から必要な情報を整理し処理する力や考察する力，身につけた知識・技能を課題の解決に活用する力の育成が望まれる。

【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高かった。一方，論述や作図など，思考力・判断力・表現力等を必要とする問題の正答率は低かった。また，無答率は昨年と比べて高かった。自然の事物・現象について主体的に探究し，基本的なことを正確に理解するとともに，文章やデータなどを読み取る力や，観察・実験の結果・考察を文章やグラフなどで正確に表現する力，実生活や他教科で身につけた知識・技能を活用する力の育成が望まれる。

【英語】

基礎的・基本的な知識を問う問題はおおむねできていた。一方，単に英文を読んで答えるだけでなく，イラストや前後の内容等から情報を結び付けて解答する問題が一定数あったため，一部の受検生にとっては時間内の的確な解答を作ることが難しかったと思われる。英語の表現力を重視する問題では，条件に合わない解答が多く見られ，無答率も高かった。授業での様々な言語活動の中で，自発的に使える語彙を定着させながら，「聞くこと」と「書くこと」等，複数の技能を統合して活用する力の育成が強く求められる。